

複数言語環境を生きる生徒への中学校国語科の授業のあり方

—年少者日本語教育・中学校国語科・中学校英語(外国語)科の視点から—

下村 京子(上田市立第一中学校)

1 実践の目標

- ① JSLの生徒・日本語を母語とする生徒共に「12~15歳という成長段階にある」という点を共通点とし、その年代の言語発達課題である「抽象的な思考力を育てる」授業実践を行うこと。
- ② JSLの生徒にとって「国語科の学習対象は第二言語・外国語としての日本語である」ことを足掛かりに、日本語を母語とする生徒の英語(外国語)科学習の「基盤」としての国語科のあり方を探ること。

2 授業の実際例 【2学年:教科書「国語2」光村図書】 (平成29年9月~平成30年2月の実践から抜粋)

| 単元名 | 教科書の示す「学習のポイント」 | 現行の学習指導要領 | JSLカリキュラム 「ねらいとする言語活動一覧」より | 英語科へのインターフェイス | | 単元展開 ○印内の数字は時数 |
|------------------|-----------------------------|---|--|---------------|------------------------|--|
| | | | | 個別性 | 普遍性 | |
| 字のない葉書 (向田邦子) | ・心情の描き方に着目する | 【B書くこと】 ○構成 イ 自分の伝えたい事柄を明確にして文章の構成を工夫する 【C読むこと】 ○語句の意味の理解 ア 心情を表す語句など ○文章の解釈 イ 描写の効果・人物の言動の意味 ○自分の考えの形成 エ 自分の知識や体験との関連づけ | 【B書くこと】 ・文章の形態に応じて適切な構成を工夫する 【C読むこと】 ・文脈の中における語句の効果的な使い方について理解する 【D言語事項】 ・慣用句や多義的な意味を表す語句の意味や用法の理解を深める | ・心情を表す語句の使い方 | ・文章の展開の仕方(随筆) | ①文章の概要を知る。 ②③ 心情を表す語句に着目しながら、文章展開の仕方を知る。 ④⑤文章展開の仕方を借り、200字以内の同様の文章を書く。 |
| 扇の的 —「平家物語」から | ・文章に描かれているもの の見方や考え方に触れる | 【C読むこと】 ○文章の解釈 イ 人物の言動の意味 ○自分の考えの形成 エ 文章に表れているもの の見方や考え方に ついて自分の考えを持つ | 【C読むこと】 ・文章に表れているもの の見方や考え方を理解する | ・その時代ならではの考え方 | ・係り結び、対句表現、リズムを持った語句構成 | ①時代背景、文学史的知識、冒頭部から「無常観」について理解する。 ②「扇の的」与一が的を射る前までを音読・現代語訳 ③与一が的を射る場面をグループで演じ、発表する。 ④「年五十ばかりなる男」の場面について理解し、自分の考えを持つ。 ⑤「弓流し」の場面について理解し、自分の考えを持つ。 |
| 書き初め | ・「新たな目標」 | (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) (2)書写に関する事項 ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと | / | ・筆という筆記具 | ・楷書、行書(ブロック体・筆記体) | ①~③お手本を目指し、筆を動かす。 |

3 成果と課題

- 【成果】**・JSLの生徒と日本語を母語とする生徒とが、「学習者としての対等性」を持てるようになったと感じること。
 ・生徒が、国語科と英語(外国語)科は『「ことば」を学ぶ』という点で「共通性」もありそうだと感じたこと。
- 【課題】**・英語(外国語)科と重なる「普遍性」と国語科の「個別性」についてより明確にしていくこと。
 ・客観性を持った評価方法を、できるだけ既存の方法から汲み出すこと。「連続性・相関性」を視点とすること。

【引用文献】 ・川上郁雄(2010)『異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー —私も『移動する子ども』だった』くろしよ出版 ・須田淳一(2015)「高大接続こぼれで測定可能な『教科横断能力』—国語科のCAN-DOリストの可能性」愛知大学短期大学部研究論集 ・文部科学省(2008)『学習指導要領』 ・文部科学省(2007)『JSLカリキュラム 中学校編』